

総合医療論 第10回 不妊治療 体外受精



生殖補助医療について

生殖補助医療とは、体外受精をはじめとする、近年進歩した新たな不妊治療法を指します。

人工授精

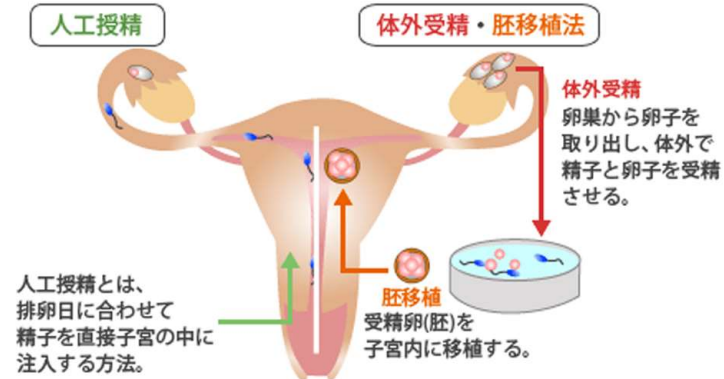
排卵日に合わせて
精子を直接
子宮の中に注入する方法

体外受精

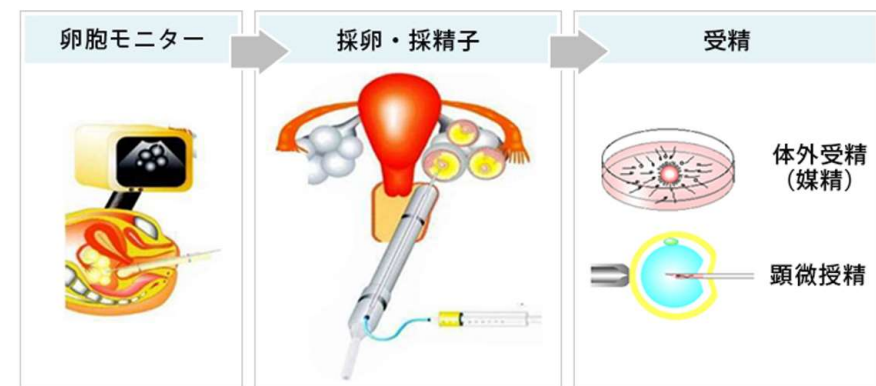
卵巣から卵を取り出し
その卵子と精子を
無菌の容器の中で
受精させる方法

授精 (insemination) 種を植える行為
受精 (fertilization) 精子と卵が結合する現象

人工授精と体外受精の手法の違い



体外受精の流れ



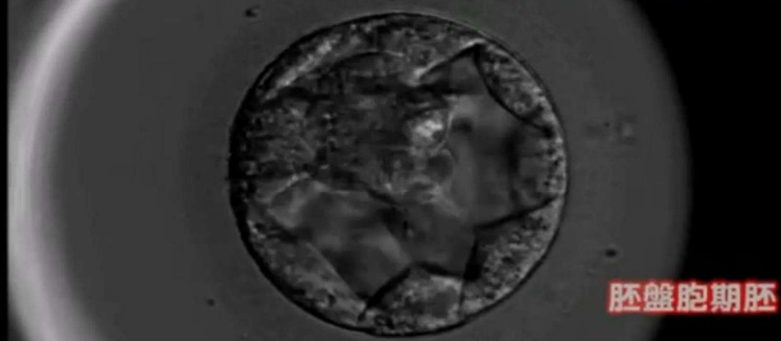
顕微受精の実際



体外受精による受精卵の形態変化



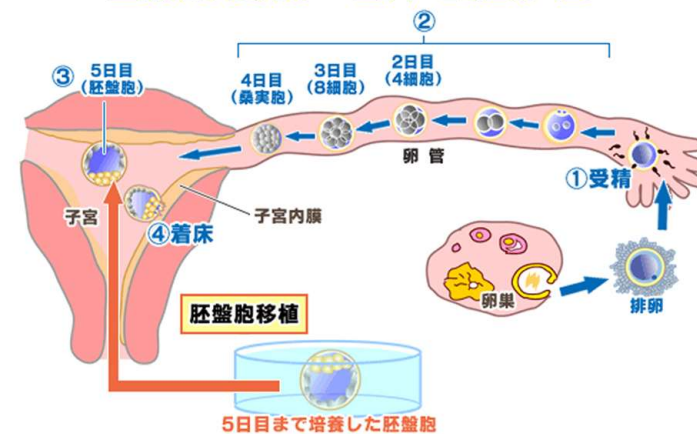
胚 (受精卵) の成長

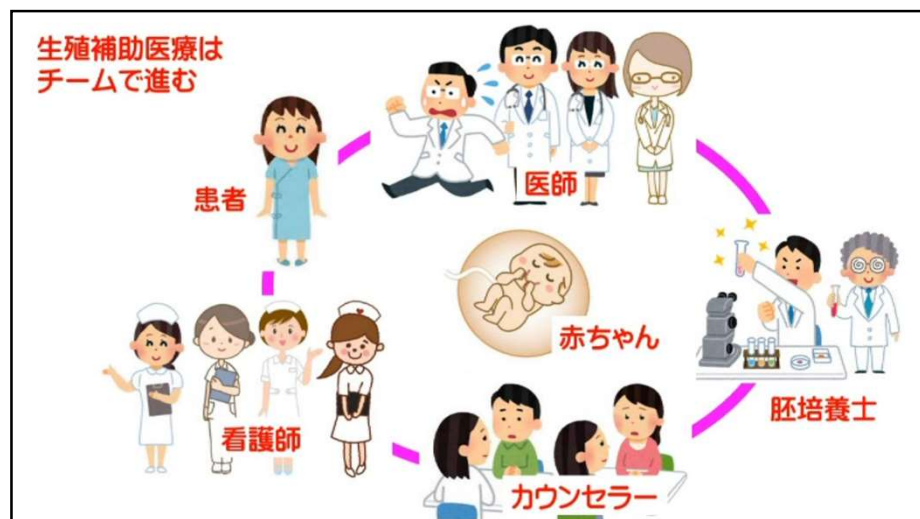


胚盤胞期胚

映像提供：
医療法人社団 神奈川レディースクリニック

自然な受精・着床と胚移植

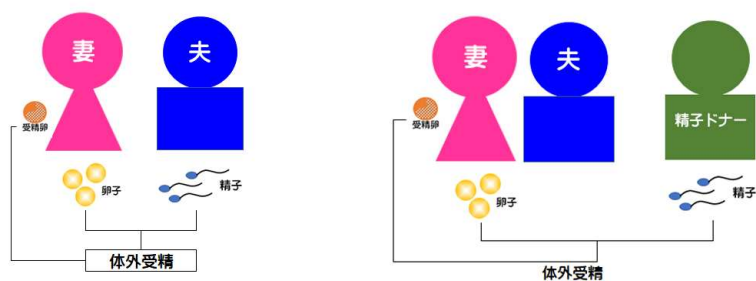




生殖補助医療に関するトラブル

精子の問題	誰の精子を使うか
卵子の問題	誰の卵子を使うか
子宮の問題	誰の子宮を使うか
費用の問題	世界・地域的市場
法的な問題	同性婚・近親婚等の問題

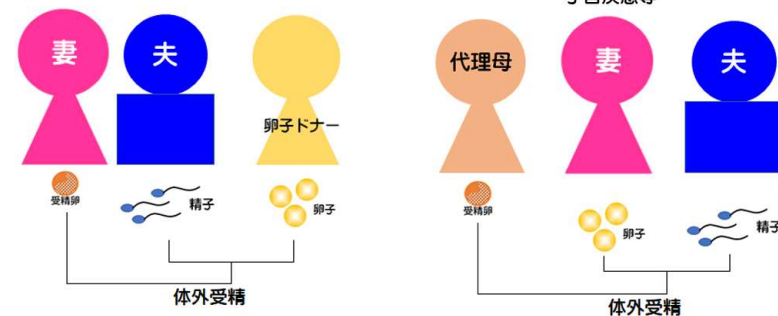
体外受精のいろいろ (1)



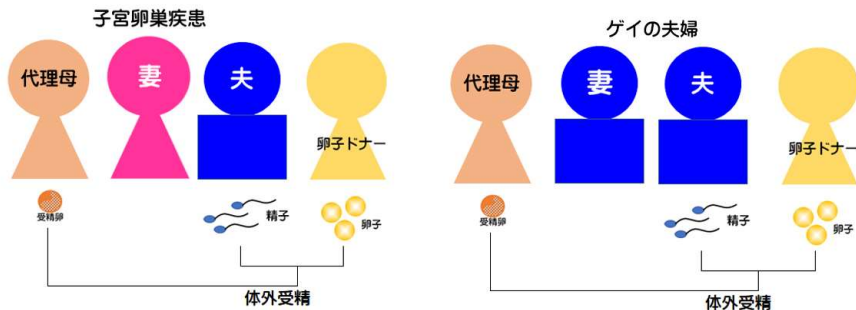
体外受精のいろいろ (2)

卵巣疾患等

子宮疾患等



体外受精のいろいろ (3)



代理出産において生ずる母親

1. 代理出産を依頼する母親
2. 卵子を提供する母親
3. 子宮を貸し、出産する母親
4. 代理出産児を育てる母親



体外受精で
やっと赤ちゃんが
できた



生まれてくる赤ちゃんは
心身ともに
健康に育ってほしい





遺伝子疾患とは

遺伝子の異常が原因になって起きる疾患の総称

染色体異常

ダウン症候群 ターナー症候群 クラインフェルター症候群など

単一遺伝子疾患

メンデル遺伝形式に従う特徴あり

血友病 筋ジストロフィー ハンチントン舞蹈病
多発性嚢胞腎 ビタミンD抵抗性くる病など

多因子遺伝疾患

ほとんどの疾患の原因に関与

糖尿病 先天性奇形 口唇口蓋裂 各種がん疾患
アルツハイマー型認知症 高脂血症 高血圧症

出生前（遺伝子）診断

胎児の遺伝子を出産前に検査する行為。

以前は羊水を使って検査されていたが、現在は妊婦の血液で胎児の遺伝子診断ができるようになった。

また、体外受精の培養中に受精卵の遺伝子診断も可能となり、着床させる前に遺伝子疾患のない子供を出産する選択ができるようになった。（着床前診断）



生まれてくる「いのち」の選別に関して
倫理的問題が高まっている。

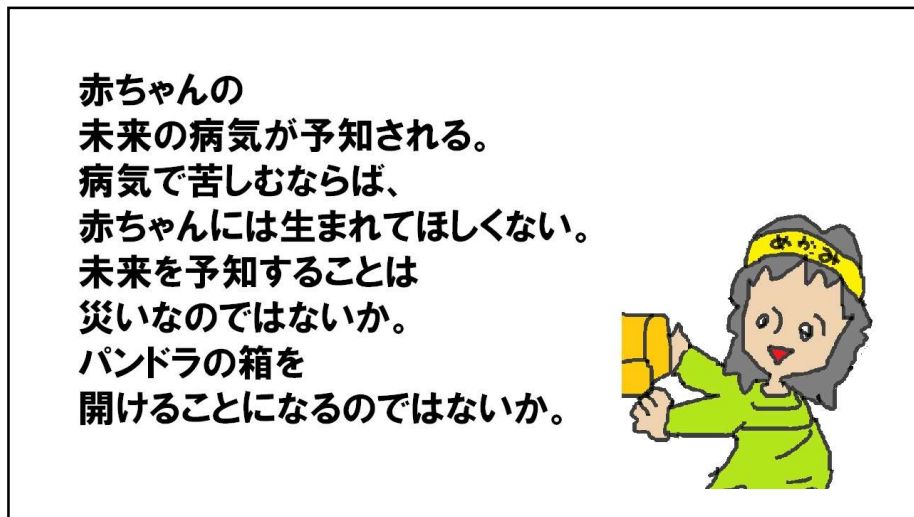


優生思想

1900年頃、「遺伝病者や遺伝的劣等者の存在を放置していれば、どんなに社会環境を改善しても、あらゆる努力は水泡に帰すことになる」「すべての国民と国家は、**劣等者たちがもたらす負担を可能な限り軽減する義務を有する**」といった社会政治運動が行われた。

遺伝的とみなされた病人や犯罪者に対して、断種・不妊手術を行う法律が1907年に米国のインディアナ州で制定されてから、1930年代に各国で制定が広がった。

日本では1948年に優生保護法が制定され、**優生学的断種・不妊手術が48年間で16,250件行われていた**。1996年に優生政策は全条文が削除され、**母体保護法**として改正されている。



産婦人科学会は遺伝子診断を推奨

遺伝子になんらかの異常がある受精卵の場合、自然の摂理として着床しなかったり、母体内で成長できなくなる率が高い。



着床前の遺伝子診断を導入した場合、
約6割だった妊娠率が7割以上に向上する。



妊娠率・出産率が高い産婦人科医療施設は売り上げ倍増。



産婦人科のゴージャス化



産婦人科学会は遺伝子診断を推奨

遺伝子になんらかの異常がある受精卵の場合、自然の摂理として着床しなかったり、母体内で成長できなくなる率が高い。

着床前の遺伝子診断を導入した場合、
約6割だった妊娠率が7割以上に向上する。

妊娠率・出産率が高い産婦人科医療施設は売り上げ倍増。



産婦人科のゴージャス化

決して優生思想から
行っている行為では
ありません！

人工妊娠中絶

母体保護法で中絶が認められるのは、次のケースのみ。

1. 母体の健康上の理由
2. 経済上の理由
3. レイプ被害などによる妊娠の場合。

